

評価目安	A あてはまる…8割以上	B だいたいあてはまる…6割から8割
	C あまりあてはまらない…5割から6割	D あてはまらない…5割以下

※1回目を7/ 1 1 2回目を12/20に実施

内 は1回目との比較
(差が生じたもの)

回答6人(100%)

項 目		評 価 基 準			
		A あてはまる	B だいたい あてはまる	C あまりあて はまらない	D あてはま らない
●園児は… 園児全体を見て評価					人数 (%)
◎教育目標『よく遊びよく学びやさしい心とはじける笑顔』 目指す姿について			□ … 1回目(7月)との差		
1	「感じる子ども」に育っていますか。 (感じ心を動かして味わう) (感じたことや思ったことを表現する)	4 +2 (66.7)	2 -2 (33.3)		
2	「よく遊ぶ子ども」に育っていますか。 (興味や関心をもちやってみようとする)	4 +2 (66.7)	2 -2 (33.3)		
3	「考える子ども」に育っていますか。 (自分で考え、遊びや生活を進めようとする) (なぜだろうと考えたり試したりしてやり遂げようとする)	2 +2 (33.3)	4 -2 (66.7)		
4	「やさしい子ども」に育っていますか。 (身近な人や自然にかかわり、親しみや思いやりの気持ちを持つ) (思いを伝え合い、相手の気持ちに気づく)	4 +4 (66.7)	2 -4 (33.3)		
5	喜んで幼稚園に通っていますか。 (登園を楽しみにする、遊びや行事を楽しんでいる、遊びの続き を楽しみにする、友達や先生と会ったり一緒に遊んだりするこ とを楽しみにするなど)	6 +1 (100)	-1		

項 目		評 価 基 準			
		A	B	C	D
●幼稚園は… 担任は自分の取り組みの中で、その他の職員は自分の役割で担当がある部分 はその取り組みの中で、自分の担当がない部分については園全体を見て評価		☐ … 1回目（7月）との差			人数 (%)
6	教育目標の目指す姿「感じる子ども」「よく遊ぶ子ども」「考える子ども」「やさしい子ども」を育む保育をしていますか。	5 ☐ +2 (83.3)	1 ☐ -2 (16.7)		
7	主体的な遊びを通して学ぶ環境づくりができていますか。	1 ☐ +1 (16.7)	5 ☐ -2 (83.3)		
8	教育目標や方針をわかりやすく伝えてありますか。 (保護者会、たより、ホームページなど)	6 ☐ +3 (100)	☐ -3		
9	保育の様子や子どもの姿をわかりやすく伝えてありますか。 (登降園時の連絡、たより、マチコミ、ホームページ、掲示、保育参観、保護者会、面談など)	6 ☐ +4 (100)	☐ -4		
10	子ども一人一人の性格や発達を理解し、それに応じた援助や指導をしていますか。 (一人一人の姿や発達段階・年齢に応じた援助、指導)	4 ☐ +1 (66.7)	2 ☐ -1 (33.3)		
11	温かい態度で接し、信頼関係を築いていますか	6 ☐ +3 (100)	☐ -3		
12	基本的な生活習慣（挨拶・着替え・片付け・食事）や、話を聞いたり挨拶したりする力を育てていますか。	4 ☐ +1 (66.7)	2 ☐ -1 (33.3)		
13	集団生活に必要な約束やきまりに気づかせ守ろうとする力を育てていますか。	5 ☐ +2 (83.3)	1 ☐ -2 (16.7)		
14	安全・清潔で明るい環境を保つよう取り組んでいますか。 (遊具の管理、避難訓練、災害発生への備え、室内外の清掃・掲示物、園庭の環境美化など)	3 ☐ +2 (50.0)	3 ☐ -1 (50.0)	☐ -1	
15	少人数保育の課題や留意点を捉え、積極的に取り組んでいますか (①保育活動や行事の工夫・改善、研究・研修) (②大人の割合が高い環境下で言葉掛けや手助けが多くなりやすい等留意点を意識した保育)	3 ☐ +1 (50.0)	3 ☐ -1 (50.0)		
16	地域との交流や、開かれた園づくりに努めていますか。 (近隣の保育園・小学校・中学校・高校や地域の方との交流、園開放、地域施設の活用、園だよりの地域回覧など)	4 ☐ +1 (66.7)	2 ☐ -1 (33.3)		
17	ペンギンルーム（預かり保育）・くまちゃん広場（園開放）は、子育て支援に役立っていると思いますか。	6 ☐ +3 (100)	☐ -3		

●職員記述

○園児全体について

- ・個人差はあるが、個々にはよく成長、達成できていると思う。

○項目3「考える子ども」

- ・行事へ向け対話を重ねる中では、考える経験をよく積み重ねられたと思う。
- ・年少児はまだ自分で考えて遊びや生活を進めるところまでいかない姿もある。これから伸びる部分であると思う。

○項目6「教育目標に向けて」、項目7「主体的な遊びを通して学ぶ環境作り」

- ・子ども達の遊びによって環境構成を変化させることがまだ十分にできていない。努力したい。
- ・好きな遊びに取り組む中で、友達や教師との対話を重ね、積極的・主体的に遊びを展開していこうとする力が育っている。運動会や発表会等の行事でもその力が発揮されていた。
- ・行事に向けて共主体的な取り組みに努力した成果は大きかった。子ども達がよく考えることができるよう教師が場面設定し、積み重ねられていた。
- ・好きな遊びを進める楽しさを味わい友達とのかかわりもよく持てている。好きな遊びを継続できる場面を増やしていくことが課題であると思う。
- ・職員間での定期的な振り返り、共有が有効であると思う。時間の確保が難しいが、できるだけ心掛けていきたい。

○項目9「保育の様子を伝えているか」

- ・たよりやマチコミでの家庭への発信の他、保護者送迎で登降園時に様子が見えやすく、保育の様子も伝えやすい環境で、保護者にはいつも子ども達の興味関心や成長と一緒に見守っていただけていると感じる。

○項目15「少人数保育の課題や留意点の取り組み」

項目15—①保育活動や行事の工夫・改善、研究・研修

- ・少人数である点を生かし、個々の言葉に耳を傾け、考えや思いを汲み取り、個に応じた援助ができた。遊びや活動を幼児の興味・関心に合わせることができ、意欲が高まり、一人一人が自己発揮できる場が増えた。
- ・教師と、また子ども同士の関係が深まり、安心して過ごすことができるようになった。対話も深まり、相手を理解したり、認めてあげたりすることができている。
- ・全員の声や思いが共有しやすいこともあり、行事など、一つの目標に向かって話し合ったり気持ちを高め合ったり、協力やまとまりができている。
- ・大きな行事について、職員も子どもも皆でアイデアを出して取り組むことで、工夫し新しい良い形で経験することができた。
- ・研究で、今年度の課題である「少人数」に関連した「交流活動」に取り組んだことで、検討、整理、分析しながら皆で一つの方向を向いて進めていくことができた。
- ・少人数の環境で、気の合う友達や思いを伝え合える友達を見つけきれなかったり、時間があつたりする幼児、また、やりたい遊びがあっても人数が足りず諦めてしまったりする幼児もいると思われる。
- ・集団遊び・様々な友達とのやりとり（かかわり）の仕方の学びについては、交流の場数が必要と思う。いろいろなトラブル・衝突など、たくさん経験してほしい。
- ・順番を待ったり、けんかをしたりする経験がしにくい等、集団で育っていく部分につながる経験が十分にできないと感じることがあるが、職員は意識を高めて努力している。努力しても埋められない部分については、職員間でその部分を共有したり、どのようなことができるか皆で検討したりできるとよいと思う。月1回でもその時間が持てるとよい。
- ・互いのことをよく知り関係が深まっている反面、関係が固定化しがちである。教師側も慣れや思い込みがないよう意識しながら、幼児が思ったことを話し、かかわり、行動できるような援助を心掛けていきたい。

- ・小集団の中で経験数が不足しがちなものとして、いろいろな友達との違いに気づき、多様性を感じながら、意見の食い違いや悔しさなどを味わい、言葉で伝え合ったり乗り越えたりし、しだいに認め合えるようになり必要な時には互いの良さを生かし協力できるようになっていく経験がある。特に今年は年長が1名のみであり、縦割り学級の中で年長としての役割を果たし発揮する機会は十分持てている一方で、横並びの友達関係の中での葛藤や意気投合して互いに高め合えるような年長ならではの経験の場を十分に用意することはなかなか難しい。保育園との交流の場をできるだけ生かしていきたい。
- ・順番を待つことや、数が足りないことによるトラブルなどの経験をしないで済んでしまっていることを私達がどう捉えていくか、(あえて場面を作っていくなど) 共通意識でいたい。
- ・同年齢の交流(保育園)は、少人数では経験しきれない部分を補うことができるのがメリットの一つであるので、「普通の遊び」で回数を増やし積み重ねていくことで、必要な経験がもっとできるのではないかな。
- ・佐倉保育園との交流で他園の子供たちと触れ合えて良かった。これまで以上に交流の機会を持つことができ、親睦を深めたり少人数では経験できないことを経験したりすることができた。回を重ねるごとに子どもたちの成長が見られ成果があった。交流は頑張って取り組めた。
- ・佐倉南高校、社会福祉協議会の方々、佐倉中学校、佐倉図書館の方々など、それぞれの方法で交流ができた。交流する楽しさや喜びを少しずつ感じ、自分からかかわっていかうとする意欲や力がついてきた。また、好意的に触れ合っていただけの経験を積み重ねられたことが、人に対する基本的な信頼感につながっていると思う。場に応じた挨拶や振る舞いなどの社会性も身につけてきている。
- ・複式学級の運営について研究し、縦割り保育の活動の中での工夫ができるようになってきた。
- ・縦割り学級の中で、年長1名も力を発揮して良きリーダーとなり、思いやったり尊敬したり異年齢で生活する中で育つ相互の成長が見られた。
- ・集団の運動遊びなど人数が欲しい時や導入の際、他の職員が入ることで関心を持続させることができています。
- ・決まったメンバーとの生活だけでなく、外とのかかわり(人、もの、経験)を持たせたいという思いから、コミュニティバスの乗車や古民家もちつきなどの経験を取り入れた。少人数だからこそできたことであつたと思う。
- ・園開放の未就園児との交流は、人数や機会は少なかったものの、積極的に声を掛けたり、優しくかかわろうとしたりする姿があり、園児にとっても有効であつた。

項目15-②大人の割合が高い環境下での留意点(言葉掛けや手助けが多くなりやすい等)

- ・カンファレンスの中で、個々の発達段階や援助の仕方や共通理解でき、それを基に子どもへの関わり方を考えることができた。状況を見て、危険を伴わないような場面では、できるだけ見守るようにした。
- ・言葉を掛けず見守っている場面で、他の教師が助けるということもある。難しいところがあるが、どういう状況か確認し合えるようにしたい。
- ・手や言葉を出し過ぎず見守ることを心掛けているが、必要な場面、見守りたいタイミングや時期、加減等、職員の共通理解が必要である。手を出してほしいところ、見守ってほしいところ、手を出してもよいと思われるところなど、時々職員間で確認したい。
- ・先生ともよく触れ合い、一人一人が十分認めてもらえる、教師の目が届き指導も行き届きやすい等の良い点がある反面、どうしても大人の目を感じたり、期待に応えることを身につけたりしやすい環境であると思う。また、子どもが自分で考え試行錯誤する場面の大切さも意識していく必要がある。これらの留意点について職員間で意識し心掛けられたのはよかった。引き続き、定期的に子どもの姿を共有しながら適切な援助や留意について確認していきたい。

○項目17「預かり保育・園開放の子育て支援」

- ・園開放の利用者が少なかったものの継続的に利用される方があり、遊びの提供も喜ばれていた。園児にとっても貴重なかかわりの場となっている。
- ・預かり保育を利用したい時に利用できるのは、子育ての大きな支援になっていると思う。夏季は職員の休暇も確保しながら体制が整えられ良かった。

●園評価考察

◎今年度2回目である職員の自己評価結果は、1回目（7月）と比較すると、全ての項目でよい方へと変化し、かつ、全ての項目で、A「あてはまる」、または、B「だいたいあてはまる」の評価となった。職員は、子どもが成長し、また、職員の取り組みの目標はほぼ達成できたと評価している。

◎園の継続的課題となっている 項目7「主体的な遊びを通して学ぶ環境づくり」 項目3「考える子ども」について

項目7「主体的な遊びを通して学ぶ環境作り」では、AとBの評価内におさまっているものの、B評価が83.3%と8割以上を占め、職員評価の中で一番低い項目となっている。また、次にB評価が多いのは、項目3「考える子ども」であり、B評価66.7%であった。職員の記述を見ると、今年度一定の成果がある一方で、まだ課題が残っていることがわかる。今年度は年少児の割合が高いという園児構成の影響が表れている点もあると思われる。この項目3「考える子ども」については、保護者はA評価が100%と、大変良い評価となっており、幼児なりによく考えて過ごしている姿や保育の場面を評価していただいているのではないかと考える。今後も園で意識して取り組んでいくことで、二つの項目が併せて上昇していくものと思われる。幼児の興味・関心に合わせ、対話を重ねながら、環境構成や援助に努めていきたい。

◎今年度の重点課題である 項目15「少人数保育の課題への取り組み」について

AとBが50%ずつの職員評価となった。今年度、園内研究の主題を「人と関わる中で自分の力を発揮し、のびのびと遊べる幼児を目指して」としてこの課題に取り組んだことで、地域の様々な方々にご協力をいただきながら交流活動を取り入れ、職員間で幼児の育ちを共有し、記述にあるような成果や課題を明らかにすることができた。少人数であることのメリットとデメリットを改めて捉えながら、留意点を意識し、職員間で意識を共通にして取り組むことができたが、詳細の部分においてはまだ課題が残っている。今後も共通理解に努めながら、幼児の経験を充実させるための環境の工夫、交流活動の取り入れ方や教師の援助の在り方等について検討を続け、全職員で取り組んでいきたい。

◎項目6「教育目標の目指す姿を育む保育をしているか」について

職員のA評価が83.3%であったが、全職員が意識し、100%目指して自分の役割の中でしっかり取り組んでもらいたい。

◎保護者の評価が比較的低めであった項目4「やさしい子ども」、項目12「基本的な生活習慣」、項目13「集団生活の約束やきまり」について

3項目とも、保護者のA評価が66.7%、B評価が33.3%となっている。項目4と項目12は、職員も同ポイントの評価をし、項目13については、職員は保護者より良い評価（A評価83.3%）をしている。心身の幼児期における発達段階の（年齢に合った）課題である部分も大きいと考える。今後も発達段階や個々の姿に応じた援助を心掛けていきたい。

◎保護者のA評価が100%となったものが10項目にのぼっている。そのうち、項目6「喜んで通っているか」、項目8「教育目標をわかりやすく伝えているか」、項目9「保育の様子をわかりやすく伝えているか」、項目11「温かい態度で接し、信頼関係を築いているか」、項目17「預かり保育や園開放は子育て支援に役立っているか」の5項目においては、職員、保護者共にA評価が100%となった。また、項目10「一人一人の性格や発達を理解しそれに応じた援助や指導をしているか」においても、保護者からA評価を100%いただくことができた。これらは、職員の日頃の心掛けや努力により保護者の理解と信頼を得ることができた大変励みとなるありがたい結果であった。良いところを自信につなげ、今後の取り組みに生かしていきたい。